

2019年8月1日

社員各位

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会  
会長 沖川 悦三

## 2019 年度定時社員総会のお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。

さて、本協会の 2019 年度定時社員総会を下記の通り開催いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます（この資料を総会当日、必ずご持参下さい）。なお、大変お手数をおかけいたしますが、総会をやむを得ず欠席される場合のみ、同封の「議決権行使書」に議決をご記入いただくか、「委任状」に必要事項をご記入いただき、ご署名又はご記名・ご捺印の上、8月15日（木）必着で同封の返信用封筒を用いて郵送又はFAXにてご返送下さいますようお願い申し上げます。「議決権行使書」と「委任状」を両方ご提出された場合は、「議決権行使書」を優先いたします。

総会に先立ちまして、事前にご質問のある方は、下記の電子メールまたはFAXにて、所属と氏名を明記の上、送信をお願い申し上げます。忌憚のないお考え、ご質問をお願い申し上げます。8月15日到着分まで受付いたします。ご質問に対するお答えは、総会及び協会誌にてお伝えいたします。その際は、質問者の所属と氏名を公開いたしますのでご了承ください。

soukai-q@resja.or.jp

FAX：045-353-8365

質問者の個人情報につきましては、総会及び一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の活動にのみ利用し、外部へ情報提供することはありません。

敬具

### 記

日時： 2019年8月22日（木）12:30～13:20

場所： 北海道科学大学 4階 E405（第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ 第4会場）  
北海道札幌市手稲区前田七条15丁目4-1

議案： 第1号議案 2018年度事業報告（案）	【資料1】
第2号議案 2018年度決算報告（案）／監査報告	【資料2】【資料3】
第3号議案 2019年度事業計画（案）	【資料4】
第4号議案 2019年度収支予算計画（案）	【資料5】
第5号議案 新役員の承認について	【資料6】

以上

【お問い合わせ先・議決権行使書または委任状 返送先】  
一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 事務局  
〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田2-7-20

# 2019 年度定時社員総会 資料集

第1号議案 2018年度事業報告(案)	【資料1】	P 1～
第2号議案 2018年度決算報告(案) / 監査報告	【資料2】【資料3】	P10～
第3号議案 2019年度事業計画(案)	【資料4】	P15～
第4号議案 2019年度収支予算計画(案)	【資料5】	P23
第5号議案 新役員の承認について	【資料6】	P24

【お問い合わせ先・議決権行使書または委任状 返送先】  
一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 事務局  
〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 2-7-20

## 第1号議案 2018年度事業報告(案)

## 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2018年度の経過

2018年度の事業として、第33回リハ工学カンファレンスを8月29日から31日まで厚木市文化会館で開催し、327名の参加者と120演題の発表があり、公開講座、福祉機器コンテスト30周年記念シンポジウム等を実施しました。福祉機器コンテスト2018は7月に一次選考会、8月に二次選考会を開催し、機器部門3件、学生部門3件とそれぞれ1件の30周年記念特別賞の受賞作を決定しました。受賞作は10月12日に東京ビッグサイトで開催された国際福祉機器展(H.C.R.2018)において本協会のブースに展示し、同会場で表彰式を行いました。受賞作はバリアフリー2019(大阪市)においても展示し、多くの関係者の注目を集めました。協会誌は33巻3号から34巻2号まで4回発行し、34巻1号では福祉機器コンテストの報告書も合わせて会員に発送しました。

分科会・専門委員会関連事業として、SIG関連では全10SIGの法人内SIG化の検討を進め、支部体制もさらに整備を進めました。災害対策委員会では、JRAT各種委員会へ委員を派遣しました。また、復興支援活動の一環として第2回災害対策セミナーを札幌市で開催しました。広報活動としてはH.C.R.2018、バリアフリー2019等においてブースを設け、本協会の活動をPRすると共に、主催者の主催するイベントに協力いたしました。また、国際連携として、RESKOにおける国際連携に関するシンポジストとして参加しました。

以上のように今年度も多方面にわたる事業を実施して参りました。従来からの事業は縮小せず、出費を抑える努力を続けてきましたが、財政面では依然として単年度赤字が出る状況が続いています。今後も本協会を継続及び発展させるため、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

会長 沖川 悦三

## 1. 社員・会員

### 1-1. 法人社員・会員

2018年7月1日 正会員 726名(うち社員(代議員) 84名)、学生会員 17名、  
賛助会員数 21社(61口)

2019年6月30日 正会員 723名(うち社員(代議員) 84名)、学生会員 24名、  
賛助会員数 18社(56口)

## 2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2018年度の活動を報告する。

### 2-1. リハ工学カンファレンス関連(担当理事: 剣持悟・鈴木太)

#### 1) 第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ開催

・会期: 2018年8月29日(水)～31日(金)

・会場: 厚木市文化会館(厚木市)

大会テーマ: 神奈川を中心に、支援技術をかたる～そしてリハビリテーション工学の未来へ～

・大会長: 沖川悦三氏(神奈川リハビリテーション病院 研究部 主任研究員)

- ・実行委員長：村田知之氏（神奈川県リハビリテーション病院）
- ・参加者総数：327名（内訳：協会・協賛団体会員184名、非会員86名、学生24名、初参加の当事者発表者9名、同行・視察24名）
- ・発表演題数：120
- ・一般演題発表、ポスターセッション、福祉機器コンテスト選考会に加えて、ファーストタイムズセッション、航空機利用に関する特別企画、福祉機器コンテスト30周年シンポジウムなどを実施した
- ・10/8に開催された実行委員会に次回実行委員長とともに参加し、今回の反省点や次回への引継ぎ事項に関して打合せを行った。実施報告書と収支報告書についても議論した

## 2) 第34回リハ工学カンファレンス準備（予定）

- ・会期：2019年8月21日（水）～23日（金）
- ・会場：北海道科学大学（札幌市）
- ・大会長：桂律也氏（三草会クラーク病院 リハビリテーションセンター長）
- ・実行委員長：早川康之氏（北海道科学大学 義肢装具学科 教授）
- 大会テーマ：リハ工学と看護・介護
- ・発表演題数：101
- ・内容：一般演題発表、ポスター発表、福祉機器コンテスト、大会長講演、特別講演、市民公開講座ほか

## 3) 第35回リハ工学カンファレンス準備（予定）

- ・会期：2020年10月24日（土）～26日（月）
- ・会場：西日本総合展示場新館3F会議室およびAIMビル3F会議室（福岡県北九州市）
- ・大会長：繁成剛氏（東洋大学 人間環境デザイン学科 教授）
- ・実行委員長：中村詩子氏（北九州市立総合療育センター）

## 2-2. 福祉機器コンテスト関連（担当理事：山形茂生）

### 1) 福祉機器コンテスト2018

- ・応募件数 50件 機器開発部門：24件（昨年28件） 学生部門：26件（昨年27件）
- 一次通過作品 機器開発部門：10件 学生部門：10件
- ・第一次選考会 2018年7月7日（土） 応募作品の書類・ビデオ審査  
於：中山福祉機器支援センター（神奈川県横浜市緑区中山町413-4）
- ・第二次選考会 2018年8月30日（木）  
機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査  
於：第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ開催会場内
- ・発表・表彰：第45回国際福祉機器展 H.C.R. 2018 会場内 2018年10月10日（水）～12日（金）
- ・感謝状贈呈式：第45回国際福祉機器展 H.C.R. 2018 会場内 2018年10月10日（水）～12日（金）  
長きにわたりスポンサーとして支えてくださった特別協賛企業のフランスベッド株式会社様と協賛企業様に、表彰式終了後に感謝状の贈呈式を開催した
- ・展示・広報：第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ 2018年8月29日（水）～31日（金）  
(受賞作品の実物展示)  
H.C.R. 2018（東京）2018年10月10日（水）～12日（金）  
(表彰式/受賞作品の実物展示)  
P.P.C. 2018（北九州市）2018年11月15日（木）～17日（土）  
(受賞作品のチラシ展示)

## 2) 福祉機器コンテスト 30 周年記念シンポジウム

第 33 回リハ工学カンファレンス in あつぎ (厚木市) 2018 年 8 月 29 日(水)～31 日(金)

- ・期間中に過去の受賞作品の展示及び受賞者によるシンポジウム

## 3) 福祉機器コンテスト 2019

特別協賛 (予定) : フランスベッド株式会社

- ・協賛 (予定) : 株式会社有菌製作所、川村義肢株式会社、株式会社ケープ、日陶科学株式会社、株式会社ミクニライフ&オート、株式会社モリトー
- ・後援 (予定) : 厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイト協会、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会
- ・福祉機器コンテスト 2019 選考委員会の設置 (2019 年 4 月 1 日～)
- ・募集対象 : 機器開発部門、学生部門
- ・広報開始・応募要綱配布 : 2019 年 4 月中旬
- ・募集期間 : 機器開発部門 2019 年 5 月～6 月、学生部門 2019 年 5 月～7 月
- ・展示・広報 : バリアフリー 2019 (大阪) 展示会 2019 年 4 月 18 日(木)～20 日(土)  
ウェルフェア 2019 (名古屋) 展示会 2019 年 5 月 30 日(木)～6 月 1 日(土)

## 2-3. 協会誌関連 (担当理事 : 石濱裕規・桂律也)

### 1) 協会誌発行

以下を発刊した。

- ・vol. 33 No. 3 2018/ 8 特集「遊び 最近の動向」
- ・vol. 33 No. 4 2018/11 特集「人工内耳」
- ・vol. 34 No. 1 2019/ 2 特集「リハビリテーション工学の卒前教育の現状と課題」
- ・vol. 34 No. 2 2019/ 5 特集「認知症のある人を支援する」

### 2) 編集委員会の開催

- ・年 4 回、協会誌の発行に併せて会場確保を行い、編集委員会を開催した。新規編集委員 4 名は公募者、ならびに公募期間後の編集委員会にて定足数 4 名が定まった

### 3) 査読体制

- ・年度内の新規投稿は 5 件、研究論文 4、技術報告 1、いずれも査読中である

### 4) 協会誌投稿規定の見直し

- ・協会誌投稿規定検討委員会を 2 回開催し、投稿規定、査読規定と整合性を有した編集委員会内規策定等を検討した

### 5) 協会誌の電子化

- ・J-STAGE 登載のための XML テンプレート作成を担当理事にて進め、登載作業を編集委員会に実施委託する予定であったが、作業量を鑑み、外部委託を含めた見直しを行っている。J-STAGE センターに当協会誌に適切な登載手続について照会を進めた

## 2-4. 分科会・専門委員会 (担当理事 : 二瓶美里・金井謙介・中村俊哉)

### 1) SIG 活動支援

- ・現在ある 10 SIG の活動を支援するために、協会誌やホームページへの講習会等の情報掲載と書式の整備、各種展示会における案内チラシの配布を行った

- ・SIG 代表者会議での意見を受けて、全SIG が法人内SIG へと移行できるよう、SIG のあり方に関する検討を行い、各SIG 代表者との意見交換を行った
- 2) 支部再編の推進及び既設支部への活動支援
- ・会員への支部に関する情報周知の目的で、協会誌に支部インフォメーションを掲載した
  - ・さらに支部の活動支援を目的に、リハ工学カンファレンス内にて支部ミーティングの場を設定するよう、カンファレンス実行委員会等と調整を行った
- 3) 災害対策委員会の運営
- ・JASPA ((一社) 日本福祉用具・生活支援用具協会) 車椅子・姿勢保持部会主催の「第8回災害復興車椅子メンテナンス in 朝倉」に有志9名で参加した(2018年11月21日～22日)
  - ・JRAT 各種委員会(戦略会議、広報委員会、研修企画委員会)およびRRT 隊員養成研修会へ委員の派遣を行い、JRAT 加盟各団体との協力関係の構築およびJRAT 内における当協会の役割の精査を行った。また委員会内でメーリングリストにて情報共有を行った
  - ・2年間の設置期間の延長を行い、今後の活動計画の検討を行った
- 4) 復興支援講習会開催
- ・災害対策委員会の活動の1つとして、第2回災害対策リハ工学セミナーの企画運営を行った。セミナーは2019年5月11日に札幌医療リハビリ専門学校(札幌市)にて、『つくってみよう!強化段ボールでつくるイスやテーブル』と題したワークショップと、『大規模災害とリハ工学ー災害にリハ工学ができることー』と題したシンポジウムの2部構成で開催した

2018年度SIG活動報告 期間:2018年7月～2019年6月 ※会員数(協会員数)は2018年6月1日現在

<b>SIG 姿勢保持</b> 代表者:繁成剛(東洋大学) ・リハ工学協会事業への協力 ・役員会の開催: 日程:2019年1月6日 オンライン会議(司会:横浜市総合リハビリテーションセンター) ・書籍(小児から高齢者までの姿勢保持・第2版)や資料集PDF版の販売	<a href="http://www.resja.or.jp/posi-sig/">http://www.resja.or.jp/posi-sig/</a> 事務局長:児玉真一(横浜市総合リハビリテーションセンター)	会員数:176名(38名)
<b>車いすSIG</b> 代表者:松尾清美(佐賀大学) ・講習会開催:2018年9月1日・2日 アミューあつぎ(厚木市) ・講習会開催:2019年2月16日・17日 横浜市スポーツ医科学センター(横浜市) ・WEBサイト運営、テキスト発行(年2回)、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他	<a href="https://www.resja.or.jp/wc-sig/">https://www.resja.or.jp/wc-sig/</a> 事務局長:深野栄子	会員数:110名(62名)
<b>自助具SIG</b> 代表者:岡田英志(ヒューマン) ・貸し出し用自助具箱の作成(貸出1件 西九州大学) ”・Facebookを利用した情報発信	事務局長:岡田英志(ヒューマン)	会員数:9名(9名)
<b>乗り物SIG</b> 代表者:岩崎満男(株式会社ウェルフェア) ・分科会(BOG)活動、協会事業への協力 他 ・SIGのFB/HP更新など	<a href="https://ameblo.jp/sunrise.jp007/">https://ameblo.jp/sunrise.jp007/</a> 事務局長:増子千景(WILD GATE)	会員数:5名(5名)
<b>SIG 褥そう防止装置</b> 代表者:新妻淳子(国立リハセンター研究所) ・HPの更新、褥瘡学会との連携(委員派遣・セミナーの後援)	<a href="http://www.resja.or.jp/sig-pmps/">http://www.resja.or.jp/sig-pmps/</a> 事務局長:河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター)	会員数:20名(20名)
<b>コミュニケーションSIG</b> 代表者:渡辺崇史(日本福祉大学) ・コミュニケーションSIG講習会で使用する操作スイッチの購入検討 ・「かながわ難病等リハビリテーション支援連絡会」の講習会(2018.10.20-21)に共催	<a href="https://www.resja.or.jp/com-sig/">https://www.resja.or.jp/com-sig/</a> 事務局長:上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)	会員数:67名(20名)
<b>SIG 住まいづくり</b> 代表者:橋本美芽(首都大学東京) ・WEBサイトリニューアル検討	<a href="http://www.resja.or.jp/sumai-sig/">http://www.resja.or.jp/sumai-sig/</a> 事務局長:鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)	会員数:107名(60名)

<b>特別支援教育 SIG</b> 代表者：松田靖史（川村義肢株） 事務局長：高原光恵（鳴門教育大学） ・特別支援関連企画への専門家紹介、実施協力など ・個別問い合わせへの対応（情報提供）	会員数：5名（5名）
<b>移乗機器 SIG</b> <a href="http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html">http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html</a> 代表者：古田恒輔（神戸学院大学） 事務局長：青木久美子（宇部記念病院が間リハビリテーション） ・移乗機器SIG講習会2019 in 神戸 開催（2019年1月26日（土）・27日（日）：神戸学院大学） ・ニュース発行（1回） ・役員会の開催	会員数：136名（23名）
<b>義肢装具 SIG</b> <a href="http://www.res.ja.or.jp/po-sig/">http://www.res.ja.or.jp/po-sig/</a> 代表者：笹川友彦（熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科） 事務局長：砂野義信 ・講習会開催：2018年9月1日（土）・2日（日） 義肢装具SIG第14回講習会 神奈川リハビリテーション病院（神奈川県厚木市） ・WEBサイト運営	会員数：132名（37名）

## 2018年度支部活動報告 期間：2018年7月～2019年6月

<b>東日本支部</b> 世話人：桂律也 事務局長：新体制に向けて検討 ・2018年度は、さっぽろカンファレンス準備もあつて、組織の再構成を実施することができなかった。 ・協会主催の災害対策セミナーに共催し、準備・広報の一部の道内メンバーが協力した。
<b>関東・甲信越支部</b> 支部長：沖川悦三（神奈川総合リハビリテーションセンター） 事務局長：村田知之（同左） ・第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ 運営など（2018年8月） ・第45回 国際福祉機器展 H.C.R.2018 リハエブースにて説明/相談、セミナーなど（2018年9月）
<b>中部支部</b> 支部長：渡辺崇史（日本福祉大学） 事務局長：新体制に向けて検討 ・新区割りでの運営体制の検討
<b>関西支部</b> 支部長：相良二郎（神戸芸術工科大学） 事務局長：糟谷佐紀（神戸学院大学） ・バリアフリー2019 リハエブース運営協力：2019年4月18日（木）～20日（土） インテックス大阪（大阪市） ・バリアフリー2019の出展社ワークショップ開催協力：2019年4月20日（土） インテックス大阪ワークショップ会場第1会場（大阪市）『電動車いすでどこでも行こう！～ローカル線を乗り鉄旅～』 ・関西支部シンポジウム『バリアフリー・ユニバーサルデザインの一步先の展開～社会的包摂に向けてのインクルーシブリサーチとは～』 2018年12月1日（土）14時～16時15分、学校法人谷岡学園梅田サテライトオフィス、28名参加 ・役員会：2018年8月29日（水）16時半～17時半、厚木市文化会館4階休憩スペース、8名出席
<b>中国・四国支部</b> 世話人：下元佳子（一社）ナチュラルハートフルケアネットワーク 事務局長：高橋一郎 ・2018年6月29日（金）～7月1日（日） 第17回高知ふくし機器展 バリアフリーフェスティバル2018 リハエブースとして参加 ・2019年4月27日（土） 第8回合同シンポジウム in 香川を「障害当事者こそが変える！人出不足の介護現場」をテーマに開催
<b>九州支部</b> 支部長：松尾清美（佐賀大学） 事務局長：小林博光（総合せき損センター） ・第20回西日本国際福祉機器展リハエブースにてパネル展示。リハエやコンテストの説明や相談等。 2018年11月15日（木）～17日（土） 西日本総合展示場（北九州市）

### 2-5. 企画推進事業（企画担当理事：中村俊哉・麩澤 孝／事業統括理事：金井 謙介）

協会の広報活動及び会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展及び出展社セミナー等の開催を行った。

#### 1) 学会展示会、広報活動強化

各地域支部協力の下、以下の展示会へブース出展し、広報活動を行った。

- ・第45回国際福祉機器展(H.C.R.2018) (2018年10月10日（水）～12日（金） 於：東京ビッグサイ

ト（東京）にてブース出展を行った

- ・第20回西日本国際福祉機器展（P.P.C.2018）（2018年11月15日（木）～17日（土） 於：西日本総合展示場新館）九州支部の協力の下、広報を行った
- ・バリアフリー2019（2019年4月18日（木）～20日（土） 於：インテックス大阪（大阪市））に関西支部協力の下ブース出展を行った
- ・第15回新潟福祉機器展（2019年5月10日（金）～12日（日） 於：新潟市産業振興センター（新潟市））にブース出展を行った

## 2) セミナー開催

以下のセミナーを開催した。

- ・第45回国際福祉機器展（H.C.R.2018）において、出展者プレゼンテーション「強化段ボールを使った福祉用具のデザインと被災地支援」（講師：繁成剛氏（東洋大学）、2018年10月12日（金））を企画・開催した
- ・バリアフリー2019 において、バリアフリー・ワークショップ「電動車いすでどこでも行こう！～ローカル線で乗り鉄旅」（講師：麩澤孝氏、4月20日（土））に関西支部の協力の下、企画・開催した

## 3) 災害対策セミナーの開催

- ・第2回災害対策リハ工学セミナーin札幌（2019年5月11日（土） 於：札幌医療リハビリ専門学校（札幌市））を災害対策委員会・第34回リハ工学カンファレンス実行委員会の協力の下、企画・開催した

## 4) 合同シンポジウムの開催

- ・全国頸髄損傷者連絡会、一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークとの第8回合同シンポジウム「障害当事者こそが変える！人手不足の介護現場 ～だれのため？みんなのため！みんなを考えよう！～」（2019年4月27日（土） 於：かがわ総合リハビリテーションセンター（高松市））を中国・四国支部協力の下、企画・開催した

## 5) 情報保障の推進

- ・リハ工学カンファレンス in あつぎにおいて、市民公開講座等で情報保障を行った。その他シンポジウム等の事業での実施はなかったが、今後に向けて方法等の検討を進めていく

## 6) その他

- ・有料セミナー等の新たな事業の検討  
協会の活性化を目的とした、有料セミナー等の事業の検討を行った。収益事業等の検討
- ・「頸損解体新書2020」の制作に係る検討及び準備  
「頸損解体新書2020」の制作に向け、全国頸髄損傷者連絡会と共に準備を開始した。

## 2-6. 国際関連の事業（担当理事：桂律也・石濱裕規）

### 1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・2019年リハ工学カンファレンスは、WHO・GATE ジュネーブ会議、ARATA/i-CREAtE などとの日程がタイトであったため、開催の案内を送るにとどめた
- ・RESKOからの要請で、国際連携に関するシンポジウムのシンポジストとして、井上剛伸氏（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）に依頼した
- ・支援技術専門家組織連合（AATPO）への加入継続としていたが、同組織は国際支援技術組織連合（IAATO）と改称し、規約を定め、新たな参加組織を募っていく方向で、作業進行中である

### 2) 国際連携推進委員会の開催

- ・対面会議は実施しなかったが、メーリングリストで緊密な連携をとった



- ・国際連携推進委員会の内規と名簿を作成 HP への掲載準備を進めている

### 3) その他

- ・第 17 回国際義肢装具協会 (ISPO) 世界大会 (2019 年 10 月、神戸) 事務局からの要請を受け、シンポジウム「Assistive Technology で高齢化社会に立ち向かう」のシンポジストとして、井上剛伸氏を推薦した

## 3. 総務

### 3-1. 規則・選挙 (担当理事: 水澤二郎)

#### 1) 規程の整備

- ・2018 年度定時社員総会第 6 号議案「年会費の値上げ」の決議を受けて、定款施行細則第 34 条の改定を行った
- ・各種規則等の規定状況についてその内容を精査し、運用上の問題点や改定の必要性の有無を確認した

#### 2) 代議員選挙、役員選挙

- ・選挙管理委員会と共に、補欠役員 (理事) 立候補者を確定し、定時社員総会に諮る準備を進めた
- ・選挙管理委員会の任期満了に伴い、新たな選挙管理委員会を発足 (留任) し、当該委員会業務に関する確認及び取りまとめを行った
- ・代議員並びに役員任期満了に伴い、代議員選挙、役員候補者選挙を行った

### 3-2. 財務 (担当理事: 岡野善記)

- ・法人会計管理を行った
- ・より詳細に経費内容を分析できるよう新コード作成し実行した
- ・法人移行時からの仮受金について詳細を確認し適切に処理を行った

### 3-3. 総会・理事会等会議開催 (担当理事: 江原喜人)

#### 1) 2018 年度定時社員総会を開催

- ・2018 年 8 月 30 日 12:45~13:35、厚木市文化会館 1 階 小ホールにおいて定時社員総会を開催した

#### 2) 2018 年度第 1 回 (通算第 49 回) ~ 第 6 回 (通算第 54 回) 理事会の開催

- ・2018 年 7 月 22 日、8 月 30 日、10 月 28 日、12 月 9 日、2019 年 3 月 17 日、6 月 16 日に理事会を開催した

### 3-4. 広報・渉外 (担当理事: 杉本昌子・鈴木太)

#### 1) 協会ホームページ運用

- ・リニューアルに伴う安全面・機能面を考慮し SSL 認証を取得した
- ・各支部、各 SIG へ広報のための支援を行った
- ・イベント、セミナー情報、協会誌、カンファレンス等、適宜更新作業を行った
- ・理事会外での運用については継続して検討を進める

#### 2) Web 管理委員会

- ・ML 配信 (14 件) /Facebook 投稿 (18 件) /FreeML 配信 (37 件) /ML 登録 (31 件)
- ・Google アカウントを取得し、Google フォームを活用したセミナー申込フォーム、アンケート回答フォームを運用し、アクセシビリティ改善と共に、事務局負担の軽減を図った
- ・同上アナリティクスの活用により、協会 HP のアクセス解析を実施し、毎理事会にて結果を報告した

- ・チャットワーク（NPO支援プログラム）の運用を各委員会にて開始し、スムーズな意見交換ができる環境を整備した

### 3) 協会リーフレット

- ・入会案内、3つ折りリーフレットのデータの更新を行った

## 4. 事務局（事務局統括理事：沖川悦三）

### 1) 事務局運営

法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進めた。

### 2) 展示会出展における広報活動を行った

## 5. 後援・協賛事業

2018年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No		団体名	開催日程	内容
1	後援	福祉用具プランナー研究ネットワーク	2018/7/15	プラネット第4回研究大会
2	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2018/7/20～21	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2018
3	後援	一般社団法人日本福祉のまちづくり学会	2018/8/8～11	日本福祉のまちづくり学会 第21回全国大会
4	後援	特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター	2018/9～2019/3	第6回ウェルフェアデザインコンテスト
5	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2018/9/5～7	ヒューマンインタフェースシンポジウム2018
6	協賛	一般社団法人日本生活支援工学会	2018/9/6～8	学術講演会L I F E 2 0 1 8
7	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2018/9/7～9	第52回日本作業療法学会
8	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2018/9/10～12	ライフエンジニアリング部門シンポジウム2018 (LE2018)
9	後援	一般社団法人ナンフェス	2018/9/17	ウォーク&ランフェスタ2018
10	後援	日本身体障害者補助犬学会	2018/10/6～7	日本身体障害者補助犬学会第11回学術大会
11	後援	NPO法人ケアリフォームシステム研究会	2018/10/27	ケアリフォームシステム研究会 全国大会in沖縄
12	後援	一般社団法人日本義肢装具学会	2018/11/10～11	第34回日本義肢装具学会学術大会
13	協賛	バイオメカニズム学会	2018/11/10～11	第39回バイオメカニズム学術講演会
14	後援	特定非営利活動法人 バイオフィリアリハビリテーション学会	2018/11/10～11	第22回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
15	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2018/11/15～17	P. P. C. 2018第20回西日本国際福祉機器展
16	後援	特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会	2018/11/17～18	第14回日本シーティング・シンポジウム

17	後援	介助犬のひろば実行委員会	2018/12/2～4	介助犬のひろばin北河内2018
18	協賛	感覚代行研究会	2018/12/3～4	第44回（2018年）感覚代行シンポジウム
19	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2018/12/13～15	第19回SICEシステムインテグレーション部門講演会
20	後援	日本チェアスキー協会	2019/2/22～24	障害者スキー普及講習会 第40回 日本チェアスキー大会
21	協力	日本身体障害者補助犬学会	2019/3/26	航空関係者対象 車椅子・電動車椅子 取扱いセミナー
22	後援	公益社団法人日本理学療法士協会	2019/5/25～26	第54回日本理学療法学会学術研修大会in 徳島2019
23	後援	第1回福祉用具専門相談員研究大会	2019/6/17	第1回福祉用具専門相談員研究大会
24	協賛	一般社団法人日本交通科学学会	2019/6/20～21	第55回日本交通科学学会総会・学術 講演会

下線は新規事業

第2号議案 2018年度決算報告(案) / 監査報告

「決算報告書」(貸借対照表、損益計算書、販売費・一般管理費内訳書)及び補助資料として「予算比較決算書」をご覧ください。

決 算 報 告 書

自 平成30年 7月 1日

至 令和 1年 6月30日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

# 貸借対照表

(単位：円)

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

令和 1年 6月30日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流 動 資 産】</b>	7,767,487	<b>【流 動 負 債】</b>	2,332,246
現金及び預金	4,848,006	前受会費等	1,966,000
前払金	809,000	前受金その他	288,750
未収入金	546,000	仮受金	12,000
前払費用	11,387	預り金	64,416
その他流動資産	1,553,094	書類頒布経費(送料等)	1,080
<b>【固 定 資 産】</b>	10	負債の部計	2,332,246
(有形固定資産)	10	正味財産の部	
器具備品	10	<b>【正 味 財 産】</b>	5,435,251
		正味財産	4,561,848
		当期正味財産増加額	873,403
		正味財産の部計	5,435,251
資産の部計	7,767,497	負債・正味財産の部	7,767,497

# 損 益 計 算 書

(単位：円)

自 平成30年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

至 令和 1年 6月30日

科 目	金	額
【入 会 金 収 入】		25,000
【会 費 収 入】		
一 般 会 費 収 入	5,252,000	
学 生 会 費 収 入	72,000	
賛 助 会 費 収 入	620,000	5,944,000
【事 業 収 入】		
書 籍 頒 布	90,000	
購 読 サービス 会 費	223,750	
協 会 誌 収 入	196,000	
そ の 他 事 業 収 入	2,981,875	3,491,625
【雑 収 入】		13,351
収 益 合 計		9,473,976
【事 業 費】		4,121,607
【管 理 費】		4,478,966
費 用 合 計		8,600,573
当期正味財産増加額		873,403

## 販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 平成30年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

至 令和 1年 6月30日

科 目	金 額	金 額
<b>【事業費】</b>		
協会誌編集・発行費	2,932,077	
事業開催費	114,044	
活動費	25,354	
会場費	197,964	
広報媒体経費	698,680	
専門委員会経費	153,488	4,121,607
<b>【管理費】</b>		
講師謝金	21,137	
公認会計士顧問料	259,200	
会議費	236,839	
会費・参加費	7,000	
交通費	2,078,598	
通信運搬費	187,239	
事務用品費	27,815	
印刷費	396,287	
事務局備品リース料	25,660	
管理委託費	70,663	
事務委託費	720,000	
支払手数料	6,554	
収納代行手数料	154,699	
その他手数料	10,324	
宿泊費	276,951	4,478,966
事業費及び管理費		8,600,573

2018 年度監査報告

2019 年(令和元年)7月 22 日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

会長 沖 川 悦 三 様

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

2018 年度(平成 30 年度)監査報告書

私たち監事は、当協会定款第 60 条の規定に基づき 2018 事業年度(2018 年 7 月 1 日より 2019 年 6 月 30 日まで)の監査を実施したので、その方法および結果について以下の通り報告します。

1. 監査の方法および内容

各監事は、理事および事務局長と意思疎通を図り、理事会の他、重要な会議や主催事業に出席し、事業報告を受けるとともに会計帳簿ならびに決算書類につき閲覧調査しました。

2. 監査結果

- 1) 業務執行状況について監査した結果、理事の職務は法令および当会の諸規定に則り執行され、総会の決議した年間事業が順調に実施されていたものと認めます。
- 2) 決算報告書、証拠書類等について監査した結果、本会の財産は適正に管理されていたものと認めます。

3. 付帯意見

- 1) 各事業担当のご尽力、とくに協会誌編集経費の削減や第 33 回リハ工学カンファレンスの黒字等により単年度の財務は大きく改善されました。
- 2) 通常業務に加え、仮受金記載の見直しや財務システムの改善など、財務担当理事と事務局により多大な作業が実施されました。この財務システムにより、次年度から業務がさらに効率化されることが期待されます。
- 3) 会費値上げにより 2019 年度から収支のバランスを取ることが過年度より容易になると予想されますが、協会全体の財務状況を常に意識した事業運営がなされることを希望します。
- 4) 今後の事業活動活発化への対応や、協会の事業継続性が担保できるよう、事務局体制の強化もしくは事務処理負担の分散についても検討を開始すべきと考えます。

監事 相川 孝訓 印

監事 赤澤 康史 印



## 第3号議案 2019年度事業計画（案）

## 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2019年度事業方針

2019年度の事業計画として、まず8月21日から23日まで北海道科学大学において第34回リハ工学カンファレンスを開催し、会期中に社員総会を開く予定です。また例年通り協会誌を4回発行し、福祉機器コンテスト2019を従前のスケジュールで実施します。また、9月25日から27日まで東京ビッグサイトで開催される国際福祉機器展（H.C.R. 2019）に当協会のブースを出展し、来場者に協会の活動紹介と福祉機器コンテスト2019の受賞作品展示、さらにこの会期中に福祉機器コンテストの表彰式を実施する予定です。

分科会活動として、全10SIGが法人内SIGとなるよう順次進めていきます。支部に関しては、全6支部を設立したので積極的な活動が行えるよう支援していく予定です。災害対策委員会では、JRATに加盟団体として、関連団体と協力しながら被災地及び今後起こりうる災害の被災地に対して支援活動を実施する予定です。

他団体との連携として、全国頸髄損傷者連絡会と共同で実態調査を行い、「頸損解体新書2020」として発行を目指しています。

国際連携推進委員会ではアジアのリハ工学関連組織の連携団体であるCREATE Asia（アジアリハ工学連携会議）と国際支援技術組織連合（Alliance of Assistive Technology Organizations）についてはこれまで通り、RESNA、AAATE、ARATA、RESKO、TREATSと調整しながら、中央委員会（Steering Committee）のメンバーとして今後の国際連携活動を推進いたします。

今年度より正会員の年会費を値上げさせていただきます。それにより、これまで当協会が継続してきた事業を確実に実施し、さらに支部活動や国際連携を進めていくために予算を計上しつつ、できる限り支出を削減するように努め、さらに新会員と協賛団体の加入を進めるよう努力していく所存です。

会長 沖川悦三

## 1. 事業

## 1-1. リハ工学カンファレンス関連（カンファレンス担当理事）

## 1) 第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろの開催準備

- ・会期：2019年8月21日（水）～23日（金）
- ・会場：北海道科学大学（北海道札幌市）
- ・大会テーマ：リハ工学と看護・介護
- ・大会長：桂律也氏（三草会クラーク病院リハビリテーションセンター長）
- ・実行委員長：早川康之氏（北海道科学大学義肢装具学科教授）
- ・発表演題数：101
- ・内容：一般演題発表、ポスター発表、福祉機器コンテスト、ファーストタイムズセッション、大会長講演、特別講演、特別企画、大会長特別企画、学生企画（各種体験企画）、市民公開講座ほか

## 2) 第35回リハ工学カンファレンス in 北九州の開催準備

- ・会期：2020年10月24日（土）～26日（月）
- ・会場：西日本総合展示場新館3F会議室およびAIMビル3F会議室（福岡県北九州市）

- ・大会長：繁成剛氏（東洋大学人間環境デザイン学科教授）
- ・実行委員長：中村詩子氏（北九州市立総合療育センター）

### 3) 第36回リハ工学カンファレンス準備

第36回リハ工学カンファレンスの開催準備を行う。

### 4) 今後のカンファレンスのあり方を検討する

## 1-2. 福祉機器コンテスト関連（コンテスト担当理事）

### 1) 福祉機器コンテスト2019

- ・第一次選考会 2019年7月7日（土） 応募作品の書類・ビデオ審査  
於：横浜市スポーツ医科学センター
- ・第二次選考会 2019年8月22日（木）  
機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査  
於：第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ会場内
- ・発表・表彰：第46回国際福祉機器展 H.C.R. 2019 会場内 9月25日（水）～27日（金）
- ・展示・広報（予定）：  
第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ 8月21日（水）～23日（金）（受賞作品の展示）  
H.C.R. 2019（東京） 9月25日（水）～27日（金）（表彰式／受賞作品の実物展示）  
P.P.C. 2019（北九州市） 11月14日（木）～16日（土）（受賞作品のチラシ展示）

### 2) 福祉機器コンテスト2020

特別協賛：（予定）フランスベッド株式会社

協賛（予定）：株式会社有菌製作所、川村義肢株式会社、株式会社ケープ、日陶科学株式会社、株式会社ミクニライフ&オート、株式会社モリトー

後援（予定）：厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会

- ・福祉機器コンテスト2020 選考委員会の設置（2020年4月1日～）
- ・募集対象：機器開発部門，学生部門
- ・広報開始・応募要綱配布：4月中旬
- ・募集期間：機器開発部門 5月～6月、学生部門 5月～7月
- ・展示・広報（予定）：バリアフリー2020（大阪）展示会（広報） 4月  
ウェルフェア2020（名古屋）展示会（広報） 5月

## 1-3. 協会誌関連（協会誌担当理事）

### 1) 協会誌編集

- ・年4回、協会誌の発行に合わせて会場の確保を行い、編集委員会を開催する。うち、年2回を目標として、Web編集委員会を開催し、経費削減をはかる。そのほか随時インターネット上にて編集作業の進捗状況について情報交換を行う

### 2) 協会誌発行

- ・以下の協会誌を発行予定  
vol. 34 No. 3 2019/8 特集「障害者スポーツの未来と挑戦し続けるアスリートを取り巻く環境（仮）」  
vol. 34 No. 4 2019/11 特集「サイエンスを民主化せよーインクルーシブデザインをめざしてー（仮）」

vol. 35 No. 1 2020/2 特集「住みなれた土地（家）で暮らしたい（仮）」

vol. 35 No. 2 2020/5 特集「未定」

### 3) 投稿論文（査読依頼）

- ・査読担当委員を中心に、投稿論文の査読者の確保、依頼等を行う。査読体制の改善、さらには査読規定の改正が必要と思われる場合には、担当者間で協議し、対処する
- ・2018年度第1回理事会において、協会誌投稿規定検討委員会の設置が承認され、2018年度第4回協会誌編集委員会後に第1回委員会を開催した（2019年1月13日）。同委員会は、協会誌編集委員会後に継続開催予定であり、投稿規定と併せて査読体制・関連規定等の見直しもはかる予定である

### 4) 協会誌の段階的電子化

- ・協会誌電子化登載作業のうち、JSTへのWeb上での登録作業を印刷元等へ委託する。委託費につき以下の経費を計上したい

## 1-4. 分科会・専門委員会関連（分科会・専門委員会担当理事）

### 1) SIG活動支援

- ・現在設立されている10 SIGは、それぞれ主体的に活動内容を企画・実施しつつ、時に複数SIG間で協同の事業を行っている。主な関心領域やメンバーの専門領域、そして企画の進め方も異なる多様性に富んだ10グループの活動組織は、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーである。これまでも当法人が企画・参画・運営する事業（講習会やコンテスト、協会誌の査読、リハ工学カンファレンスなど）実施に際して法人内SIG・協力SIGと協働しており、2019年度以降も同様に協働しながら当法人の活動を活性化していきたい
- ・SIGの活動を支援するために2018年度より協会誌やHPへの情報掲載の運用について整理を行った。情報発信は重要であるとの認識から、今後も各SIGと情報交換しながら情報発信を進めていく。現在、法人外SIG（協力SIG）とは2016年度に基本協力関係の覚書を締結し、協力関係を明確にしたが、各法人外SIGの活動が拡大する中で対外的に協会との関係性を整理する必要が出てきている。そこで2018年度のSIG代表者会議を受けて、全10SIGが法人内SIGとなるように各種条件の整理を行い、法人外SIGの法人内SIGへの移行を順次進めていく

### 2) 支部への活動支援

- ・2016年度より、支部設置方針を見直して、設置申請方式から地域区割り方式に変更し、会員はいずれかの地域の支部に所属し、各地域でのリハ工学に関わる人的ネットワークを構築するために規定整備を行った。2018年度は協会誌やHPで全支部からの情報を掲載し、会員への周知を図っているが、支部ごとで活動状況に差があるので、2019年度はさらなる支部活動への支援を積極的に行う。また継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金の配分を行いたい

### 3) 災害対策委員会の運営と大規模災害時の協会の対応

- ・災害対応を行う目的で2016年度に設置された「災害対策委員会」が、2018年度よりさらに2年間の設置期間が延長された。2019年度はその2年目として本期限付き委員会の活動を継続して行うとともに、常設委員会としての設置の必要性についても検討を行う。また、大規模災害時の協会の対応について2018年度は災害対策委員会の中で検討・実施を行っており、2019年度もJRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）活動への参加や大規模災害に対応している他団体との協力体制構築及び被災地調査などを実施する。これらの活動に際しては企業から災害対策活動協賛金を募ることで実施する
- ・2019年度の主な活動は以下の通り

- ・災害対策セミナー等の企画・実施
- ・平成28年熊本地震への対応の検討
- ・平成29年九州北部豪雨への対応
- ・平成30年7月豪雨への対応
- ・平成30年北海道胆振東部地震への対応
- ・大規模災害時支援活動基本方針の策定
- ・JRAT活動への参加と連携
- ・障害を持つ人の防災マニュアル(仮称)の作成
- ・JRAT・JAWS・JASPA・日本福祉用具供給協会などの連携の窓口
- ・その他、災害対策委員会が独自に必要と認めたこと

#### 4) 災害対策セミナーの開催

- ・昨年度に続き、本年度も開催を検討する。運営は災害対策委員会を中心に各SIGの協力を仰ぎながら企画し、リハ工学の啓発、技術伝承及び、災害時の福祉用具や住環境改善の対応等の内容から検討する
- ・内容はこれまではシンポジウム形式を中心としていたが、ワークショップ等の体験型のイベントなど新たな形式も検討していく

対象者：専門職向けやリハ工学に興味のある方等

2019年度活動計画 期間：2019年7月～2020年6月 ※会員数(協会員数)は2019年6月1日現在

<b>SIG 姿勢保持</b>	<a href="https://www.resja.or.jp/posi-sig/">https://www.resja.or.jp/posi-sig/</a>	会員数：176名(38名)
代表者：繁成剛(東洋大学)	事務局長：児玉真一(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会開催：実施予定 日程：2019年9月7日(土)～8日(日) 会場：山西福祉記念会館(大阪)</li> <li>・役員会の開催：開催予定 日程：2019年12月末 オンライン会議(予定)</li> <li>・書籍(小児から高齢者までの姿勢保持・第2版)や資料集PDF版の販売</li> </ul>		
<b>車いすSIG</b>	<a href="https://www.resja.or.jp/wc-sig/">https://www.resja.or.jp/wc-sig/</a>	会員数：108名(57名)
代表者：沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター)	事務局長：深野栄子	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会開催：2019年8月24日(土) 北海道科学大学(札幌市)</li> <li>・講習会開催：2020年 日程と場所は未定(未定)</li> <li>・WEBサイト運営、テキスト発行(年2回)、分科会(BOG)活動、大規模災害復興支援、協会事業への協力 他</li> </ul>		
<b>自助具SIG</b>		会員数：9名(9名)
代表者：岡田英志(ヒューマン)	事務局長：岡田英志(ヒューマン)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テクノエイド協会自助具データベースへの協力</li> <li>・貸し出し用自助具箱の充実・貸出促進</li> </ul>		
<b>乗り物SIG</b>	<a href="https://ameblo.jp/sunrise.jp007/">https://ameblo.jp/sunrise.jp007/</a>	会員数：5名(5名)
代表者：岩崎満男((株)ファースト・ウェルフェア)	事務局長：増子 千景(WILD GATE)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会(BOG)活動、協会事業への協力 他</li> <li>・SIGのFB/HP更新など</li> </ul>		
<b>SIG 褥そう防止装置</b>	<a href="https://www.resja.or.jp/sig-pmps/">https://www.resja.or.jp/sig-pmps/</a>	会員数：20名(20名)
代表者：新妻淳子(国立リハセンター研究所)	事務局長：河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新</li> <li>・日本褥瘡学会との連携</li> </ul>		
<b>コミュニケーションSIG</b>	<a href="https://www.resja.or.jp/com-sig/">https://www.resja.or.jp/com-sig/</a>	会員数：67名(20名)
代表者：渡辺崇史(日本福祉大学)	事務局長：上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションSIG講習会(勉強会)開催(時期未定)</li> <li>・コミュニケーション支援団体との協力活動</li> </ul>		
<b>SIG 住まいづくり</b>	<a href="https://www.resja.or.jp/sumai-sig/">https://www.resja.or.jp/sumai-sig/</a>	会員数：107名(60名)
代表者：橋本美芽(首都大学東京)	事務局長：鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会事業への協力</li> <li>・WEBサイトリニューアル検討</li> </ul>		
<b>特別支援教育SIG</b>		会員数：5名(5名)
代表者：松田靖史(川村義肢株式会社)	事務局長：高原光恵(鳴門教育大学)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ工学協会事業他、講習会等への協力</li> </ul>		

・特別支援関連事例の収集（継続）	
<b>移乗機器 SIG</b> <a href="http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html">http://www.reha.kobegakuin.ac.jp/~hp-reha/transfer/index.html</a> 会員数：136名（23名） 代表者：古田恒輔（神戸学院大学） 事務局長：青木久美子（宇部記念病院訪問リハビリテーション） ・協会事業へ協力 ・ニュース発行（2回）	・役員会の開催
<b>義肢装具 SIG</b> <a href="https://www.resja.or.jp/po-sig/">https://www.resja.or.jp/po-sig/</a> 会員数：115名（32名） 代表者：笹川友彦（熊本総合医療リハビリテーション学院 義肢装具学科） 事務局長：砂野義信 ・講習会開催：2019年8月24日（土）義肢装具SIG第15回講習会 北海道科学大学（札幌市） ・WEBサイト運営	

2019年度活動計画 期間：2019年7月～2020年6月

<b>東日本支部</b>	
世話人：桂律也（クラーク病院）	事務局長：新体制に向けて検討
・第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろで、支部ミーティングを開催し、今後の体制、活動計画を策定予定。	
<b>関東・甲信越支部</b>	
支部長：沖川悦三（神奈川県総合リハビリテーションセンター）	事務局長：村田知之（同左）
・第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろ 支部セッションの企画/運営など（2019年8月）	
・第46回 国際福祉機器展 H.C.R. 2019 協会ブースにて説明/相談、セミナーなど（2019年9月）	
<b>中部支部</b>	
代表者：渡辺崇史（日本福祉大学）	事務局長：
・運営体制の整備と支部活動内容についての検討	
<b>関西支部</b>	
支部長：相良二郎（神戸芸術工科大学）	事務局長：糟谷佐紀（神戸学院大学）
・バリアフリー2020 リハ工ブース運営協力：2020年4月16日（木）～18日（土） インテックス大阪（大阪市）	
・バリアフリー2020の出展社ワークショップ開催協力	
・関西支部シンポジウム：内容・日時・場所未定	
・役員会：日時・場所未定	
<b>中国・四国支部</b>	
世話人：下元佳子（一社） ナチュラルハートフルケアネットワーク	事務局長：高橋一郎
・第18回高知ふくし機器展 バリアフリーフェスティバル 2019 にて合同シンポジウムで実施した「障害当事者こそが変える！人出不足の介護現場」をテーマにディスカッションを行う予定	
<b>九州支部</b> <a href="https://6208.teacup.com/koy/bbs">https://6208.teacup.com/koy/bbs</a>	
支部長：小林博光（総合せき損センター）	
・web 掲示板の活用促進	
・第21回西日本国際福祉機器展 オフラインミーティング	

1-5. 企画推進事業（企画担当理事／事業統括理事）

協会の広報活動及び会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等の開催を行う。

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会等へブース出展し、広報活動を実施する。その際には各地域の支部で運営するように体制整備を併せて行っていく。

- ・第46回国際福祉機器展(H.C.R. 2019)での広報（2019年9月25日～9月27日 於：東京ビッグサイト（東京））
- ・バリアフリー2020（2020年4月 於：インテックス大阪（大阪））
- ・その他各地域で行われている福祉機器展や関連学会についても、可能な範囲で出展を行い協会の広報等を行う。各地域支部やSIGとの協力を積極的に進めると同時に、可能な限りセミナー実施とセットで行う

2) セミナー開催

各福祉機器展において出展機会を有効活用し、出展効果を向上とリハ工学に関する普及を促進する目的で、積極的に出展社セミナー・ワークショップを開催していく。この企画・運営についても支部を中心に

実施できるよう体制整備を行う

- ・ 第45回国際福祉機器展（HCR2019）での出展社プレゼンテーション等を企画・開催
- ・ バリアフリー2020での出展社ワークショップを企画・開催
- ・ その他の地域で開催される福祉機器展においても、支部・SIGなどと協力してセミナーの開催を検討する

### 3) 合同シンポジウムの開催

前年度は、これまで開催実績のない中四国支部のエリア（香川県高松市）での開催。2019年度については、開催地域は未定だが、単独事業での実施だけでなく、カンファレンスや支部活動などの協会事業との連携も含めて検討する。

### 4) 頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査2020の実施

- ・ 前回の頸損解体新書2010の発行よりまもなく10年が経過する。その間、技術の進歩や環境や社会情勢の多くの変化があった。このことから、全国頸髄損傷者連絡会と共同により、頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査を実施し、この10年間の変化を明らかにする
- ・ 本調査の結果は、2020年度にその他の福祉用具の普及や開発の参考となる資料としてまとめ、頸損解体新書2020として発行する

### 5) 新たな会員獲得、及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進

新たな会員獲得、及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進を目的に、現在の事業の見直しと共に、新たな企画推進事業の検討と実施を行う。

- ・ 新たな会員獲得、及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進を目的に、講習会・物販等の新たな企画推進事業の検討を行う
- ・ 実現可能性の高いと思われる事業について、試行的に実施する  
対象者：専門職向けやリハ工学に興味のある方等  
開催候補地：未定

### 6) 情報保障

- ・ 障害者差別解消法の施行により、障害のある人に対する情報保障を実施する必要がある。当協会においても、主催セミナー・シンポジウムや支部事業、カンファレンス等において情報保障の実施が求められており、そうした社会情勢に対応するための体制づくりを継続して行う

## 1-6. 国際関連事業（国際担当理事）

### 1) 国際関連団体との相互協定に基づく交流

- ・ リハ工学カンファレンスへの各国代表参加者の参加費負担
- ・ iCREAtE、RESKO、TREATS、RESNA等へのRESJA代表者の参加費負担
- ・ 国際支援技術組織連合（IAATO）事業、ウェブ会議への参加、加盟分担金負担
- ・ WHO-GATEへの協力

### 2) 国際連携推進委員会の設置

- ・ 理事会のもとに、協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を、設置し、必要時に、対面会議およびメール会議を年に数回の開催を予定し、理事会の決定を補佐する

### 3) 協会HPでの広報

- ・ 国際連携事業の状況・国際連携推進委員会名簿・連携団体主催のカンファレンスなどの情報について協会HPに掲載する

## 2. 総務

## 2-1. 規則・選挙関連（規則・選挙担当理事）

- 1) 2019年度（令和元年度）役員候補者選挙
  - ・2019年度（令和元年度）役員候補者選挙を行う
  - ・次回の代議員選挙ならびに役員候補者選挙へ向けて「電子投票システム」導入の具体的検討を推し進める
- 2) 規程の整備
  - ・各種規程を整備し、改定を必要に応じて行う

## 2-2. 財務（財務担当理事）

- ・法人会計の管理を行う
- ・各SIGおよび各支部の会計統合の準備を進める

## 2-3. 総会・理事会等会議の開催（総会・理事会担当理事）

- 1) 2019年度理事会の開催
  - ・年5回、定例の理事会を開催する。開催予定場所は新横浜。開催予定時期は、2019年7月、10月、12月、2020年3月、6月を目安とする
- 2) 2019年度定時社員総会の開催
  - ・2019年8月、カンファレンス開催期間中に定時社員総会を開催する  
日時：2019年8月22日（木） 12:20～13:20  
場所：北海道科学大学

## 2-4. 広報・渉外（広報・渉外担当理事）

- 1) WEB管理委員会活動
  - ・協会ホームページ、SNS、会員メールサービス等を適切に管理・運用していく
  - ・Googleアカウントを適切に管理・運用しながら協会業務の効率化を図る
- 2) 協会リーフレット更新
- 3) オンラインストレージの利用

## 2-5. 事務局（事務局担当理事）

- 1) 事務局運営
  - ・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進める
- 2) 展示会出展における広報活動
- 3) チャットワークを利用して理事会運営の効率化を図る

## 3. 後援・協賛事業

- ・後援・協賛予定事業（主催団体と内容）は下記の通りである

No.		団体名	開催日程	内容
1	協賛	バイオメカニズム学会	2019/7/5～7	第26回バイオメカニズム・シンポジウム
2	後援	福祉用具プランナー研究ネットワーク	2019/7/21	プラネット第5回研究大会

3	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2019/7/26～27	第18回ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド
4	後援	SENSの会福岡支部会北九州地区継続研究会	2019/8/10	第11回子どもが「わかる」「できる」教材作成ワークショップ
5	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2019/9/2～5	ヒューマンインタフェースシンポジウム2019
6	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2019/9/6～8	第53回日本作業療法学会
7	協賛	一般社団法人日本機械学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人日本生活支援工学会	2019/9/12～14	L I F E 2 0 1 9
8	後援	国際義肢装具協会 日本支部	2019/10/5～8	第17回国際義肢装具協会世界大会 (ISPO2019神戸世界大会)
9	協賛	バイオメカニズム学会	2019/11/30～12/1	第40回バイオメカニズム学術講演会

下線は新規事業



## 第4号議案 2019年度収支予算計画(案)

## 2019年度 予算案

## 収入

コード	勘定科目	連結予算 (2018年度)	本部会計	カンファレンス 会計	コンテスト 会計	2019年度
	<入会金収入>	110,000	150,000			150,000
1411	入会金(今年度分)	110,000	150,000			150,000
1412	入会金(前納分)	0	0			0
	<会費収入>	8,596,000	10,760,000			10,760,000
416	一般会費(今年度分)	6,260,000	8,000,000			8,000,000
1416	一般会費(前納分)	1,176,000	1,500,000			1,500,000
1417	一般会費(下半期分)	100,000	120,000			120,000
1419	一般会費(過年度分)	80,000	100,000			100,000
1420	学生会費(今年度分)	100,000	100,000			100,000
1422	学生会費(下半期分)	40,000	40,000			40,000
1423	賛助会費(今年度分)	60,000	100,000			100,000
1424	賛助会費(前納分)	780,000	800,000			800,000
	<事業収入>	10,872,000	1,652,000	6,420,000	2,590,000	10,662,000
421	書籍頒布	110,000	100,000			100,000
422	協会誌広告収入	160,000	160,000			160,000
423	協会誌掲載料	130,000	130,000			130,000
1430	購読サービス会費今年度	110,000	110,000			110,000
1431	購読サービス会費(前納分)	52,000	52,000			52,000
	一 カンファレンス関係収入	6,420,000		6,420,000		6,420,000
425	コンテスト開催協賛金	2,200,000			2,200,000	2,200,000
	一 コンテスト関係収入	390,000			390,000	390,000
428	セミナー収入	450,000	300,000			300,000
426	事業費雑収入	250,000	200,000			200,000
429	その他の協賛金	600,000	600,000			600,000
	<雑収入>	7,400	5,000			5,000
471	受取利息471	7,400	5,000			5,000
472	雑収入472	0	0			0
	【合計】	19,585,400	12,567,000	6,420,000	2,590,000	21,577,000

## 部門別支出

No.	部門名	所属組織	2019年度予算
1	理事	理事会	2,080,000
10	事務・管理	総務系	1,716,184
15	組織管理	総務系	140,000
20	広報	総務系	120,000
25	国際関連	事業系	422,000
30	企画推進	事業系	1,290,000
35	専門委員	事業系	720,000
40	SIG	事業系	350,000
50	支部	事業系	600,000
60	事業管理	事業系	1,420,000
70			
80	協会誌	事業系	3,460,000
85	委託事業	事業系	
90	予備・その他	その他	150,000

小合計 12,468,184  
カンファレンス開催費 6,220,000  
コンテスト開催経費 2,590,000

総合計 21,278,184

## 形態別支出

No.	仕分け	2019年度予算
641	協会発行経費	3,300,000
645	活動費	1,080,000
646	活動補助金	1,050,000
647	会場費	110,000
649	広告媒体費	930,000
672	講師・謝金	130,000
678	公認会計士顧問料	259,200
683	会議費	180,000
684	交通費・旅費	3,400,000
685	通信費(電話・電信)	76,000
686	送料(運賃)	180,000
687	事務用品費	60,000
689	印刷費	164,000
690	事務経費	140,000
692	事務局備品リース代	25,660
702	事業委託費	220,000
703	管理委託費	34,000
704	事務委託費	720,000
705	手数料	7,000
706	収納代行手数料	160,000
707	その他手数料	10,324
740	会費参加費	232,000
	小合計	12,468,184

収支 298,816

## 第5号議案 新役員の承認について

定款第34条により、新役員の承認の審議を行う。

役員候補者選挙により、選出された候補者は以下の通りである（50音順）。

## ＜理事候補＞

- ・青木（杉本）昌子 パシフィックサプライ株式会社
- ・石濱裕規 医療法人社団永生会
- ・植田瑞昌 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ・江原喜人 総合せき損センター
- ・岡野善記 株式会社766
- ・桂律也 社会医療法人社団三草会クラーク病院
- ・剣持悟 川村義肢株式会社
- ・鈴木太 愛媛頸髄損傷者連絡会
- ・谷口公友 広島国際大学
- ・中村俊哉 兵庫県立福祉のまちづくり研究所
- ・西村顕 横浜市総合リハビリテーションセンター
- ・水澤二郎 一般財団法人啓成会
- ・村田知之 神奈川県総合リハビリテーションセンター
- ・森田千晶 神奈川県立保健福祉大学

## ＜監事候補＞

- ・赤澤康史 兵庫県立福祉のまちづくり研究所
- ・伊藤和幸 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

## ＜会計監査人＞

定款第33条第2項により、会計監査人は設置していないため候補者はなし。

—————以下、役員選出に関連する規則の抜粋である（2017.8.1現在）—————

## 【定款】

## 第34条

理事及び監事並びに会計監査人は、社員総会の決議によって選任する。

（補足）

（役員の設定等）

第33条当法人に、次の役員を置く。

（1）理事11名以上15名以内

（2）監事2名

2当法人に、会計監査人を1名おくことができる。

3理事のうち、1名を代表理事とし、代表理事をもって会長とする。また、1名を副会長とすることができる。

4理事のうち、若干名を業務執行理事とする。